

緑鮮やかな季節を迎えて

独立行政法人農林漁業信用基金
総括理事（林業担当）



吉村 洋

緑鮮やかな季節となってまいりました。

緑は、目に優しく、人の心に安定や調和をもたらしてくれるそうです。

我が国は、国土のおよそ7割が森林の緑で覆われています。

森林は、目や心への作用だけでなく、水源の涵養、災害の防止、生物多様性の保全・地球温暖化の防止など様々な恩恵を私たちに与えてくれています。

また、森林から産出される木材は炭素を固定し、加工が容易な優れた素材です。

森林の恩恵は、伐って、使って、植えて、育てるという循環が成り立ってはじめてもたらされるものです。

そこで大きな役割を担うのが林業・木材産業です。

林業・木材産業は今、追い風に背中を押される一方、逆風にさらされている面もあると言えるでしょう。

森林資源の量はかつてなく充実し、木材自給率は年々向上しています。

地域社会の発展、国際的な潮流であるSDGsや脱炭素の達成のためにも林業・木材産業への期待が高まっています。

コロナ禍に端を発した外材の入手難や木材価格の上昇は、様々な課題はあるものの、国産材利用量や収益拡大の契機となる可能性があります。

一方、目まぐるしく変化する国際情勢によ

って、原油や原材料価格、海上輸送、サプライチェーン、為替相場などの変動や混乱が懸念されています。

これらによって林業・木材産業の経営環境にも様々な影響が生じる可能性もある中、事業者の皆様は、日々の経営に大変なご苦勞をされていることと思います。

私どもの林業信用保証業務は、林業・木材産業の健全な発展に資することを目的としています。

この目的達成のため、融資機関の皆様との適切なりスク分担の下、関係者の皆様の声を伺いつつ、各地で懸命に努力されている林業・木材産業関係者の皆様に対し、継続的・安定的な信用保証サービスを提供してまいります。

かつての我が国では、半ば収奪的に森林が利用され、今では想像も出来ないほど各地で山肌が露出していました。

今日の豊かな森林は、戦後営々と森林造成に当たった先人の努力によりもたらされたものです。この貴重な森林の恩恵を将来にわたって享受できるよう、林業・木材産業の更なる発展が期待されています。

ともすれば様々な変化に振り回されがちな昨今ですが、意識的に緑を眺め、安定と調和を意識して業務に取り組みたいと考えています。

本年度も独立行政法人農林漁業信用基金の業務に特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。